

田舎に住もう

『低速自動運転車を買って、空き家を改装し田舎に住み、子育てをしましょう』

<日本の現状>

暮れの朝日新聞の「出生率 10 年連続減少」の記事が示す通り、この 30 年で（給与が増えておらず）税類が倍増し、未婚率が 5 %から 25%の 5 倍増しているので、少子高齢化が加速し、その結果、負のスパイラル（貧困⇒少子化⇒個人負担増⇒貧困）となっており「一課題追求型」個別の少子化対策、過疎対策等をやっても焼け石に水の状態となっています。

全ての選挙公約自体が「一課題追求型」であり、消費税減税といってもまた国民会議と言っても、どこかにしわ寄せを設定することが前提なので、一見前に進むように見えたりしますが、全く意味がありません。

このままでは負のスパイラルが加速し、どんどん日本が衰退してしまいます。

（中国系企業優遇の停止のお願い）

世界をリードしていた NEC や富士通のパソコン事業が中国企業（レノボ）に、また最後に残ったソニーの TV 事業が中国企業に買収されています。

河野太郎氏の主催する政府の再エネ打ち合わせでは中国企業のロゴ入資料を使い、中国マネーにより再エネ機器のほとんどが中国製となり、パナソニック、シャープ、東芝、日立等の日本の有力企業が再エネ機器からの撤退を余儀なくされています。（あのトランプ大統領でさえ、US スチールを黄金株で死守しており）中国マネーを拒絶し、日本の企業を守る施策への転換をお願い致します。

<日本の進むべき道>

「正のスパイラル」に転じるには、社会システムの転換が必要であり、それが「スロー社会の構築」です。概要を以下の URL にてご確認ください。

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_7c19c3d15c8c47abb9011a578ab22454.pdf

（↑全ての課題を同時に解決し、誰でもが幸せになれる最良・最大の経済政策）

「スロー社会は移動社会」「スロー社会は集う社会」「スロー社会は AI 社会」

「スロー社会は幸福社会」「スロー社会は安全社会」「スロー社会は子育て社会」

「スロー社会」＝「移動社会」構築により、免許を持たない高齢者や障害者、子供達が、24 時間いつでもスマートホンで、車載 AI との会話にて、呼び出し、場所と行先場所とを決め、また行先場所からの帰りの時間と帰りの場所を決めることで、気軽に安全に移動できるようになり、かなり遠方からでも、夜中に

寝ながら移動できるので、どこもかしこも活性化します。

駅から何キロ以上も離れた郊外ではバス便が少ないか無く、停留所も離れているので、車の免許を持たない高齢者や障害者・子供にとって、とても不便でしたので過疎が進みましたが、「スロー社会」は、日本の価値観、暮らし方・考え方を一変させてくれます。

免許がなくても**誰でもがマイカーを持ち**、充実した移動（*）ができるので、郊外の家賃が安く広い家に住み替える人が増加し、それが少子化・過疎化・空き家・休耕田畑を解消するばかりか、誰にでもやさしい豊かな心・豊かな社会・世界から尊敬される日本（人）像を演出してくれます。

（*）充実した移動とは、冷暖房完備の静かなスペースで、疲れたらそのまますぐに横になれ、多少アルコールを飲みながらも、AI との会話にて、質の高いテレワークや受験勉強ができます。

数十キロ以上離れた観光地や景勝地、アウトレット等には、夜間に寝ながら移動し、日中は現地で遊び、帰りも夜間に寝ながら帰宅できます。

「トラックの「モード切替」の効用」（バス・一般車もモード切替車は有用）

「モード切替車」とは、人が運転する従来の車に、マイアバター（AI）及び、中～大画面のモニターを設定し、マイアバター（AI）が車載超音波センサーからの情報及び車載カメラからの情報とを総合的に判断して低速自動運転を行うモードと、従来の人が法定速度で運転するモードの切り替えが行えるものです。（下記の URL の P 3 をご参照下さい。）

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_7c19c3d15c8c47abb9011a578ab22454.pdf

長距離運送トラックの場合、日中は適当に休憩を取りながら長距離を運転し、夜間は駐車場に停め眠るパターンが多いと思われますが、深夜（22 時～30 時）は、幹線道路も低速自動運転走行を認可すれば、寝ている深夜の時間帯は低速自動運転車モードに切り替えて走行、8 時間 x 6 km＝約 50km も距離を稼ぐことができます。

また早朝に道路上に駐車し、納入予定の倉庫の営業開始待ちの大型トラックをよく見かけますが、マイアバター（AI）が倉庫側の AI 又は担当者と電話で情報交換をし、納入車順番待ちを考慮した、また前納入車両の荷下ろし時間を

考慮した低速自動運転を行い、無駄のない（路駐のない）倉庫到着を演出することができます。

「低速だから、各種リアカーが設定可能」

誰でもが 24 時間いつでも移動するスロー社会では、物価の安い（特に家賃）田舎に住む人達が急増すると考えており、連動して農業従事者も急増し、農業が活性化すると予測をしております。

6 kmの低速なので、リアカーを連結しても安全であり、収穫物や農耕機材の運搬が行えるので、トラクターや軽トラの運転免許証がなくても農作業がやり易くなり、（法改正が必要ですが）連結リアカーに乗っての撮影や「**移動食卓**」を囲むのもよいと思います。

また、低速自動運転車載の AI（マイアバター）とダイナミックレンジの広い超高感度カラーカメラ（キヤノン製）を使つての自動デリバリーシステムが可能です（以下の URL の ANNEX-2 の右側をご参照）が、同様にして、リアカーにロボットを搭載し、りんごやなしの収穫システムが構築できると考えています。

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_7c19c3d15c8c47abb9011a578ab22454.pdf

車載カメラは、通常の 4 方向の広角レンズ付帯の超高感度カラーカメラの他に上向きの前記カメラが必要になります。（合計 5 台）

広角レンズの周囲 4 方向＋上方向で、下側を除く全空間をカバーし、また車が移動することで、さらに果樹列の反対側の立体画像を加味することで、死角のない果樹の AI 立体画像を形成し、葉や細い枝ならロボットハンドが押しのけて収穫し、太い幹なら（移動し、果樹列の反対側からも含めて）別の位置からのロボットハンドが届くよう AI が考えてくれます。

＜スロー社会構築の進め方＞

『最先端の特許技術を官民一体となり強力に進めるバリウスリンク会議を提唱』

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_dcab117c3f5b4c569d06b0da2b11f64d.pdf

地域ごとや企業（群）ごとに補助金を出しての分散投資型を脱却し、一か所に集中投資を行い、多くの企業の力を結集し、広くユーザーの意見を聞きながら、また法整備を進めながら、誰でもが欲しがるものを官民が一体となり、開発をすることが大切です。（最先端の特許技術は以下の URL をご参照下さい。）

https://ipforce.jp/patent-jp-P_B1-7595386

<カーボンニュートラルの早期達成のアクションのお願い>

(危険な原発行政の見直しのお願い)

トランプ大統領が「フクシマは 3000 年住めなくなる」と再三警告する福島第一原発の地下水に漏れ出した高濃度放射物質が海洋に流出する前に食い止める必要があるのに、IAEA に 40 億円の破格の寄付をすることで、ごまかそうとしておりますが、廃炉ではなく封印が必要です。(以下の URL をご参照)

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_733811a9bef843bd8b243554e438b169.pdf

また、老朽化した原発の再稼働は危険極まりなく、刈羽原発でも再稼働の準備段階で制御棒引き抜き作業にトラブルがあり、また再稼働直後に警報がなり中断をしましたが、老朽化した車があちこち故障するように、特に停止をしていた原発システムは随所でさび付き、あちこちで重篤な不具合が発生する可能性が高いです。(想定外の地震に耐えられるかのどうかも分かりません。)

早急に、新しく日本製の再エネシステムが必要ですが、河川の(位置)エネルギーを利用する発電システムは、100 年前でも可能な原始的な技術ながらも、春夏秋冬 24 時間大容量の発電を行い、環境破壊がなく、森林サイクルを促し、河川を安全かつ有効に使い、田舎に主体を移した新しい街作り(スロー社会・移動社会・田舎社会)にもつながります。

<河川の大型水車発電>

日本は自然豊かであり急峻な河川も数多く、三つの工夫(*)をすることで、再エネの宝庫となりますので、また難しい技術はなく(100 年前の技術で十分であり)複数の地元の土建・建築会社様の協力で達成可能ですので、「河川にプールを設定・木造人工島を浮かべての大型水車発電」をご検討下さい。

(以下の URL の P4 をご参照下さい。)

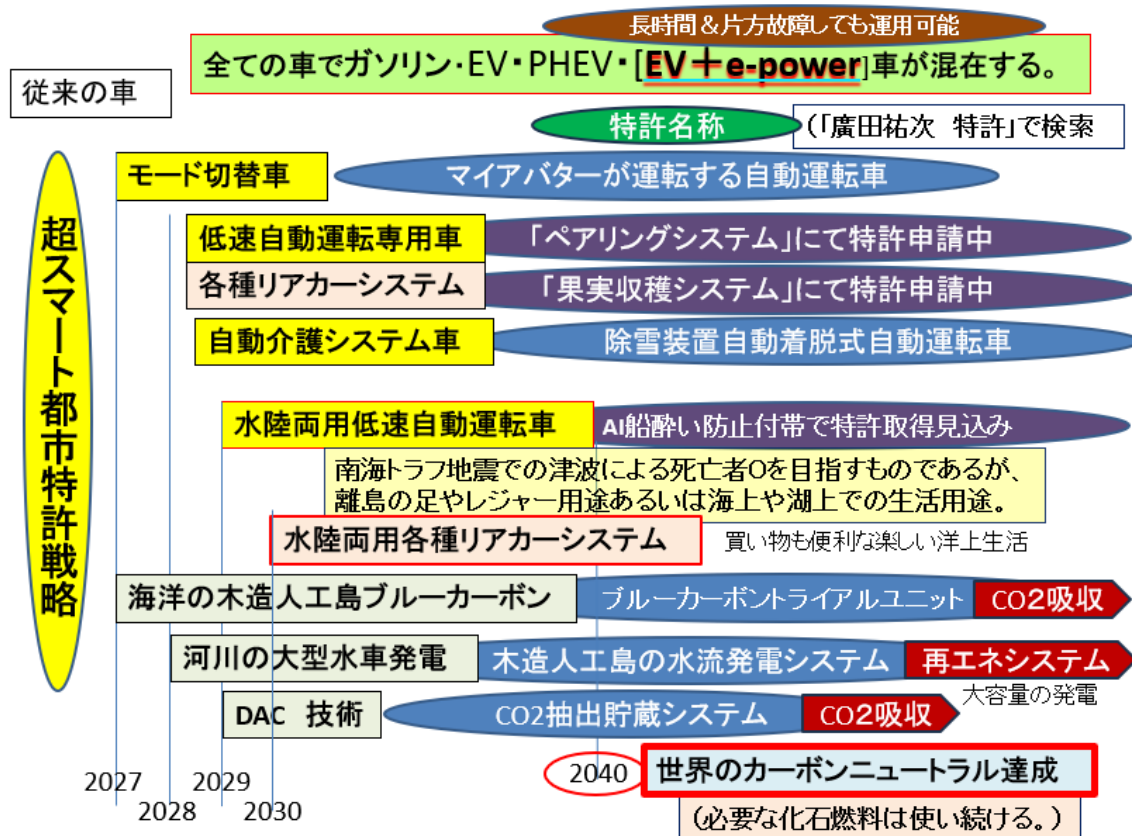
https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_9d5829003e6b41edad694b730159e5b0.pdf

(*) 三つの工夫とは、①河川の水量の変化に対応するためプールを設定し、また水路を狭めることで流速を増す。②河川の増水に対応するため河川にバイパスを設定し、また流木の流入防止の斜めワイヤーを設定する。③さらに河川敷を整備し、桜並木や銀杏並木等を設定し、**遊歩道&低速自動運転車混在道路**にし、また低速自動運転車専用の(安い)駐車場を設定する。

＜超スマート都市構想＞

超スマート都市とは、「河川の水車発電」の電力を使い、海洋に面した都市では主に「木造人工島のブルーカーボン」にて、海洋を持たない都市では主に「DAC (Direct Air Capture) 技術」にて CO₂ の吸収を行い、地産地消にて排出した CO₂ 以上の CO₂ を吸収し、世界のカーボンニュートラルに貢献しながら、スロー社会を構築し、誰でもが終末まで幸せに暮らせる都市になります。

どの技術も古典的なものであり、どこの都市でも地元の企業群が下記の特許技術をベースにし、必要な工夫を加えて進めることができますので、早急なるお取組をお願い致します。



◎75 歳以上の国民に低速自動運転車（一般タイプ又は自動介護タイプ）を買い与え、莫大な借金（MMT 資金：国債）をしたとしても「スロー社会構築」で、あらゆる課題が解決し、地方も中央も 24 時間活性化し、日本が独占する「マイアバターが運転する低速自動運転車」が爆発的に世界中で売れて、結局借金がチャラ（国債償還）になるばかりか、再び国際競争力一位、一人当たりの GDP が一位になると、確信しております。